



倉敷教会で司祭叙階式！ ブレイズ神父様 おめでとうございます。

七月十四日（土）午後二時から、岡山県の倉敷教会において、ヨゼフ三末篤實司教の司式によって淳心会のブイంగా・ブレイズ助祭の司祭叙階式が行われた。台風の接近で荒れ模様のため、内外から三五〇名を超える方々が参列し、ブレイズ新司祭の門出を祝った。

この日の叙階式は特に召命のために祈る日として準備されてきた。ブレイズ新司祭自身の言葉にもあったように、淳心会の司祭叙階式が日本で行われたのは五十九年の歴史の中でも初めてのことで、特になかなかカテドラルまで足を運べない岡山・鳥取地区の方々にとって司祭召命を考える大切な機会となった。

カトリック

広島教区報

No. 69

カトリック
広島司教区

発行責任者
広報担当
服部大介神父

広島市中区鞆町 4-42
広島司教区館内
TEL (082) 221-6017

司教平和メッセージ

平和は神からの賜物 (故・教皇パウロ六世)

カトリック広島司教区長 三末篤實司教

今年も忘れることのできない原爆記念日を迎えました。このことは人類の歴史が長く限り、忘れることのできない出来事ですし、すべての人が原爆の怖さと破壊性を認識しなければなりません。

世界の大国をはじめ、数多くの国々が核施設を準備したり、計画しようとしています。未だに誤った理念を持っていくからです。

故教皇ヨハネ二十三世は、その回勅「地上に平和」の中で、「軍備の均衡が平和を招来するという定理を……人々の間の真の平和は相互の信頼の中にしか確立することができないという原則に替えることによつて可能となりうる。」と言われているように、武力によつては決して平和は実現できないのです。

故教皇ヨハネ・パウロ二世も、広島での平和スピーチの中で、「イデオロギーや国益や経済的要求などの衝突は、戦争や暴力的手段以外の方法で調停し、解決することができますし、ま

たそうせねばなりません。」と訴えられました。

日本国憲法第九条に「国権の発動たる戦争と武力による威嚇または武力の行使は国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。」と宣言していますが、この精神と歴代教皇の教えに基づいて、私たちは何をしなければならぬかを真剣に考え、具体的に行動へ移して参りましょう。しかし、平和の実現に当たっては大きな妨げがあります。それは「エゴイズム」です。個人・団体・宗教・民族・文化・国家など種々のエゴイズムです。これらが大きな妨げとなつて、いることを反省する必要があります。そのためには祈りと神の御助けがなければなりません。

故教皇パウロ六世はいみじくも回勅の中で、「平和は神からの賜物である」と述べられています。私たちはそのことを常に忘れず、祈りと活動を通して平和の実現に最善を尽くしたいと思います。

たそうせねばなりません。」と訴えられました。

日本国憲法第九条に「国権の発動たる戦争と武力による威嚇または武力の行使は国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。」と宣言していますが、この精神と歴代教皇の教えに基づいて、私たちは何をしなければならぬかを真剣に考え、具体的に行動へ移して参りましょう。しかし、平和の実現に当たっては大きな妨げがあります。それは「エゴイズム」です。個人・団体・宗教・民族・文化・国家など種々のエゴイズムです。これらが大きな妨げとなつて、いることを反省する必要があります。そのためには祈りと神の御助けがなければなりません。

故教皇パウロ六世はいみじくも回勅の中で、「平和は神からの賜物である」と述べられています。私たちはそのことを常に忘れず、祈りと活動を通して平和の実現に最善を尽くしたいと思います。

平和の使徒推進本部の動き

平和の使徒推進本部 祇山 登

「平和の使徒となってますか？」

「平和の使徒となろう」……
宣教師司牧に関する司教宣言
が出されて、一年余り経過
しました。広島教区の皆さ
ん「平和の使徒となってい
ますか？」

この問い掛けを改めて広
島教区の私たち自身に問い
掛けてみたいと思います。
この一年で国内外の社会情
勢は「主の平和」から離れ
ていつているように感じま
す。そんな世相の中、私た
ち広島教区民は「キリスト
の平和を（実践し）伝える
ために遣わされている」と
司教宣言は言っています。
すなわち、私たちは「平和
の使徒」なのです。
そう私たちは、キリスト
の平和（福音）を実現する
ために、社会の中で福音を
実践し述べ伝える役割を持
っています。

そのことを端的にあらわ
しているのが、ミサの最後
に「行きましょう、主の平
和のうちに！」と派遣のこ
とばがあります。これはミ
サが終わりました聖堂から
出ましようという意味では
ありません。

このことばは、「社会の
中で・生活の場で・職場
で・家庭などそれぞれの場
所で、ミサで聴いた福音を
実践し他の人にも述べ伝え
よ」ということです。

前述しましたが、私たち
カトリック信者は、洗礼を
受けたときに主イエスによ
る救いを受け、そして主の
平和を知らない人々にキリ
スト（メシア）の福音を実
践し述べ伝える恵みを頂き
ました。

平和の使徒推進本部（以
下、「推進本部」）は、「私

たち信者がキリストの平和
を実践し伝える」お手伝い
をする部署です。「キリス
トの平和を実践し伝えるた
め」つまり、司教宣言を実
践していくためのガイドラ
インが発表されており、項
目ごとに実践提案や他で実
践されていることを広く広
報（推進）することを担う
部署です。互いに実践の交
流をし、励まし合いながら
サポートするのが推進本部
の役目です。

推進本部には、平和・き
ょうどう・養成の各推進チ
ームがあります。それぞれ
の最近の取り組みを紹介し
ます。「平和推進チーム」
は、九月の「正義と平和」
全国集会を重要な推進項目
として取り組んでいます。
「きょうどう推進チーム」
は、推進チーム体制が確立
し、また各小教区を対象と
したアンケート結果をまと
めています。「養成推進チ
ーム」は、み言葉の奉仕職
の養成を重点項目として、
養成プログラムを企画推進
しています。

さて、これら「平和の使
徒」を推進するために、推

進本部ではホームページを
利用しています。速報性に
おいては、紙による情報伝
達よりはるかに早く有効的
です。パソコンが無くても
携帯電話専用ホームページ
も開設しています。「平和
の使徒」として推進本部の
ホームページを有効利用し
ていただきたいと思います。

最後に、あくまでも「平
和の使徒」は一人ひとりの
信者です。そして「平和の
使徒」の私たちは「キリス
トの平和を伝える」ことが
必要なのです。

携帯用サイト
QRコード



検索は下記の語句で

平和の使徒

検索

平和の使徒推進本部ホームページ (URL:<http://hiroshima.catholic.jp/~pcaph/>)

携帯電話専用ホームページ (URL:<http://hiroshima.catholic.jp/~pcaph/i/>)

広島司教区公式ホームページ (URL:<http://hiroshima.catholic.jp/>)

広島司教区情報サイト (URL:<http://hiroshima-diocese.net/>)

広島司教区青少年情報センター (URL:<http://hiroshima.catholic.jp/~hsjc/>)

第33回 カトリック「正義と平和」全国集会 広島大会

いよいよ来月に!!

いよいよ来月の九月、第三十三回カトリック「正義と平和」全国集会広島大会が開催されます。

昨年九月十日開催の広島教区宣教師司牧評議会（臨時）の決議を受け、十月十四日に実行委員会が発足し、着々と準備が進められてきました。

本大会を開催する意義は、まさに「平和の使徒」となることです。

広島教区と教区民は「平和の使徒」となろうとして、新しい一歩を被爆（戦後）五十周年にあたる一九九五年に踏み出していきます。その年、第二十一回「正義と平和」全国集会も開きました。その歩みの上に二〇〇六年司教宣言『平和の使徒となろう』が出されました。

その背景の中で「正義と平和」全国集会を開くことは、広島教区にとどまらず、教区を超えて「正義と平和」に関心をもっている人々との連帯を築き、「平和の使徒」の輪を拡げているために大きな意味があります。

さらに今年は、日本の全教会あげてペトロ岐部と一八七殉教者の精神を現代に生かす年でもあります。広

島教区民の召し出しである「平和の使徒」を現代の社会で実践しようとすれば、これら殉教者の生き方に深く重なっています。

今年の広島教区の年間テーマ「平和の使徒となろう」殉教者を想い、自分の信仰を生きる」と同じく、「正義と平和」全国集会広島大会のテーマとしたのはこのためです。

広島教区民として、今回の全国集会の意義を理解し、一人でも多くの人が関わり、「平和の使徒となろう」という使命の一面に自分の役割を見出し、意識して参加することを希望します。

「正義と平和」ということばを耳にすると、「むづかしいこと」「自分には関係ない」といったイメージを持つ人は少なくないでしょう。

この大会に集うこと、それが「平和の使徒」としての第一歩、わたしたちに出る「平和の使徒」としてのきっかけ（ヒント）になること、そう願って参加しましょう。

この全国集会は、むづかしい集会ではありません。

本大会は来月九月二十二日（土）～二十四日（月・祝）の三日間、世界平和記念聖堂を中心に開催され、他教区から二〇〇人を超す方が参加される全国集会です。

その中で特に九月二十三日（日）は、「広島教区民が集う日」としました。

これは、ひとりでも多くの広島教区民の方に参加してもらおうようにとの配慮からです。

★二十三日（日）
「広島教区民が集う日」
のお願い事項

- ◎参加費は無料です。
- ◎昼食は各自で用意してください。
- ◎本大会のために「献金」のご協力をお願いします。
- ◎当日は、各所にカンパ箱を用意していますのでご協力をお願いします。
- ◎会場に駐車場はありません。公共機関や周辺の有料駐車場をご利用ください



【カトリック正義と平和全国集会 広島大会 23日のプログラム】

- 10:00~ 社会司教委員会シンポジウム (於: エリザベト音大)
・現時点では、5人の司教によるシンポジウムを予定しています。
- 13:00~ 分団会《分かち合い》
・司教を囲んでの分かち合いを予定しています。
- 15:00~ ミサ (於: 世界平和記念聖堂)
・大人も子供も外国籍の方も、この日集った人たち全員でミサを献げましょう
- 16:30~ 松元ヒロさんソロライブ (於: エリザベト音大)
・松元ヒロさんのトークは、「人間らしい生活を脅かすものに対する反発」
「平和を脅かすものに対する異議申し立て」を、笑いと涙を通して私達に伝えてくれます。



カテドラル前の歓迎の横断幕

毎年六月の始めに行っている教区司祭・年の黙想を、今年はフィリピンで行うことになったのにあわせて、姉妹教区であるインフアンタを訪問することになりました。これまで個人的には何度も訪れたことのある司祭もいましたが、ほとんどの司祭が初めてで、こうして司祭団として訪問できたことは本当に交流を深めるよい機会となりました。

広島教区司祭団、インフアンタを訪問

インフアンタ教区のティローナ司教自らが、マニラ空港まで迎えに来てくださり、その後のすべての送迎や案内はもちろんのこと、食事や宿泊もできる限りのもてなしをしてくださいました。

また、司教座聖堂に隣接するミッションスクールの登校日にして、私たちを歓迎してください、共にミサを献げることができました。ある学年は早副神父の被爆体験を聞く機会を作ってくれ、熱心に聴いてくれました。その後、タガイタイという場所にある黙想の家に移動しましたが、ティローナ司教と前教区長のライオン司教が黙想指導してください、本当に大きな恵みをいただいた黙想となりました。

このような顔と顔を合わせる交流がこれからもさまざまな形でできることができ、さらにより良い姉妹教区となっていくのではないかと思います。



広島の殉教者① (ヨアキム九郎右衛門)

「ペトロ岐部と百八十七殉教者」の列福が二〇〇七年六月一日、教皇ベネディクト十六世の裁可で正式に決定した。一八八福者のうち、広島教区の五名の福者について、殉教地・巡礼地ネットワークの担当司祭である肥塚神父より、少しずつ紹介して行く。

ヨアキム九郎右衛門は、福島正則あるいは浅野長晟の家臣の武士階級のキリシタンが多かった当時の広島島の信仰共同体にあって、町民階級の代表的な人物でした。一六〇八年に洗礼を受け、以後「慈悲役」を務めました。「慈悲役」とは、現代の教会委員に該当するものでしたが、共同体の運営や財政よりは司牧や社会活動に献身する人々でした。たいしては、三人か四人の熱心な信徒が一つの組を作り、貧しい人を助け、病人を見舞い、彼らを精神的にも物質的にも援助し、常に神父と連絡を取り、時には臨終に立合い、死者の葬儀の世話をするなどの奉仕をしていました。

ヨアキムは、キリシタンでない人々からの信望も厚く、殉教の日まで「慈悲役」に従事し、弾圧下にあつて司祭不在の時には幼児洗礼や緊急洗礼を授ける任務を受けていました。現代の「信徒使徒職」の使命を忠実に果たした人でした。

特筆すべきこととして、一六一三年、広島にハンセン病の人々のための施設をキリシタンたちの手でつくり、保護し、世話をしていたということです。「慈悲役」のヨアキムは責任者の立場にあつたと思われま

「今日は淳心会管区の中心でできつと特別な日になりました。五十九年の日本の淳心会の歴史の中で、今日が初めての日での司祭叙階式なのです。私の願いを受け入れて、それを実現してくださったエドガル管区長に感謝します。宣教師として派遣された管区内で叙階されるということは日本では珍しいことですが、他の淳心会管区ではごく普通に行われています。」

三年前宣教師として日本に生まれました。神学校時代からずっと外国に住んでいる私は、自然に自分の住んでいる場所、宣教の場の共同体を家族のように、また自分の出身教区のように感じ



ブインガ・ブレイズ神父様

るようになりました。ですから今日、これまでお世話になったすべての方々への感謝を表わすために、この日本の倉敷教会で、日本の方々が見守る中で叙階していただき、喜びを分かち合うのが一番ふさわしいと心から思うようになったのです。……

……倉敷地域ブロックの皆さん、私は一年三ヶ月前にこちらに引越してきましたが、さまざまな点で皆さんに支えられました。今日のミサとパーティのため

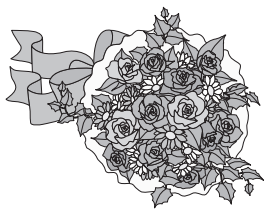
に何ヶ月も前から準備してくださった皆様に感謝し、私の家族のように支えてくださったことに改めて深く感謝いたします。



これからも一緒に神の国の建設のためにがんばりましょう。そして雨にもかかわらず遠いところから今日のミサのために参加してくださった皆さんに心からお礼を申し上げます。

私は今日司祭として一年生になったばかりです。また日本の皆さんの生活や文化もわたしにとってまだまだこれからの世界です。これからわたしを導いてください。

司祭として人間としてわたしが成長できるように皆さん、これからもお祈りし、共に歩み、支えてください。さいますようお願いいたします。」(叙階式の挨拶から)



おめでとうございます
ありがとうございます



釜山教区から広島教区へ派遣されて、早くも五年の任期を迎えることになり、七月いっぱい釜山教区へ帰国されました。

ラサール会館での神学生活から始まり、広島教区で助祭叙階、そして司祭叙階を受けられた関神父様

関棟國 (ミンビョングク) 神父様

は、まさにメイド・イン・ヒロシマの司祭です。

観音町教会と松江教会での活躍のみならず、日本と韓国との交流のためにたくさんの方々の努力をしてくださいました。

七月の司祭の集まりの後、関神父様の送別会が行われましたが、多くの司祭の声が、再び広島教区へ戻ってきて欲しいという願いでした。これまでの神父様への感謝と、韓国での活躍、そしていつかまた広島へ帰ってくださり、共に働けることをお祈りしています。



各地区便り

広島地区

合同侍者合宿

六月九日(土)～十日(日)、幟町教会において広島地区合同侍者合宿を行いました。広島市内の教会はじめ呉、三原教会など八つの教会から小中高生・青年・保護者・リーダー・神父様合わせて八十八名が参加し、三年生以上は侍者の勉強と仲間作り、低学年と保護者はワークシヨップで楽しく学びました。

イエス様の名によって集まり、共に祈り、学び、遊び、沢山の出会いに喜んで合宿でした。



岡山・鳥取地区

三本柱の体制整備と起動

本年度第一回宣教司牧評議会(五月十三日)では、平和・きょうどう・養成の各チーム体制が整い、強化された。九月の「正義と平和」全国集会に向けて各チームとも躍動的な動きが見られる。

◆平和推進チーム

現代世界講座「日本国憲法を考える」集い(七月で十回目)では司教団文書など読み、分かち合い形式で学び合っている。

「ユニティー岡山」(在住

山口・島根地区

親の集いについて

六月二十四日(日)、山口教会にて「山口島根地区少年の集い・親の集い」を開催した。今回は、地区内八教会から参加があり、約四十名の子育て中の親、子育てが終わり孫の世話をする時期となった方が、講師の李聖一神父の講話を聴き、その後、三グループに分かれ、子育てや宗教教育

外国人支援窓口)を設立し。九月大会「案内」を英訳した。

◆きょうどう推進チーム

アンケートを実施。集計した結果、きょうどうの意識は高く、実行されている。今後、地区内小教区を訪問・交流して実態を知

◆養成推進チーム

殉教者の霊性をキーワードに溝部修司教の講演会を五月に開催。キリストの弟子として命を賭して教えを守り抜いた殉教者を手本に平和をつくる人の輪を広げている。

などについて分かち合った。

地区大会

十月二十一日(日)、山口教会を会場に、三末司教をお招きし、「山口島根地区大会」が開催される。今回は、祭りでなく、午前中にはブロック別のプレゼンテーションをするなど、列福される百八十八人殉教者を想い、祈り中心の地区大会を計画している。

海峡からの風

下関労働教育センターだより

●友人が「平和のDNA」という言葉をよく口にす。広島平和記念資料館を訪れた時、記帳に「小学校六年の時に見た思いは二十歳になっても変わっていません」と書いてあったという。その時「平和のDNA」という言葉が浮かんだのだと。●米軍再編による空母艦載機の岩国基地移転に岩国市長が反対している。国は補助金の交付を停止し、賛成議員の突き上げも激しい。●戦時中、国民学校で教師から往復ビンタをされた所長神父、日本植民地下の台湾で育った医師、全共闘時代の大学で青春をおくった元市大学長などなど、センターに集う人たちが岩国市長の激励に行った。年齢を問わず、各々の戦争に関する様々な体験が、平和を希求するDNAとして刻まれ、突き動かされるのだ。●「憲法が武力を放棄しているから、戦争

に反対しているのではない。戦争に反対する私の思いが、日本の憲法に書いてある。だから九条を護りたい」と友人は言う。●「アメリカ人がつくったものでも、人間が作った法律で素晴らしいければそれで良いではありませんか。日本人のバカな人が寄ってたかつてつくるより、はるかに良いものです」三輪明宏/歌手・俳優(憲法を変えて戦争に行こうという国にしないための十八人の発言)岩波ブックレットから)●いろいろな人の持つ「平和のDNA」はその人の持ち味でユニークに表現され、聴く者の心に受け継がれる。●とすれば、キリスト者とはイエズスのDNAを受け継ぐ者と考えるもいいだろう。イエズスのように考え行動する。●戦争の記憶が甦る熱い日が来る。自分の「平和IIイエズスのDNA」を夏空いっぱい発信することができるだろうか。

(細江教会・廣崎隆一)

ワールドワイド

マリッジ エンカウンター ウィークエンドへのお誘い

マリッジ エンカウンター

(ME) ウィークエンド

とは、家庭や社会の中にあ

る、様々な関わりを基礎と

なっている夫婦の関わりを

深めていくための方法を体

験的に身につける二泊三日

のプログラムです。夫婦が

お互いを、そして結婚とい

う結びつきを新鮮な目で見

直し、二人の将来を見つめ

るとてもよい機会です。ま

た、自分達二人と神との関

係、自分達と周囲の人々と

の関係をも深く見つめるひ

とときです。

夫婦だけでなく、人々との

関わりを深めたいと思っ

ている司祭、修道者も参加で

きます。MEウィークエン

ドはカトリックの主催です。

日時 ○七年十月六日(土)

二十時~八日(月)十八時

場所 福山暁の星学院研修

センター

対象 夫婦(結婚年数、信

者・未信者を問わな

い)、司祭、修道者

申込・お問い合わせ

古川(祇園教会)

○八二八―四二―四二

田中(福山教会)

○八四―九二―六八七五

私は マリッジ エンカ

ウンターに大きな期待をか

けています。(前教皇 ヨ

ハネ・パウロⅡ世)

〈記念切手販売〉

三原教会は九三年に聖トマス小崎

の殉教碑を建設しました。この度、この殉教碑を知って

いただく目的で記

念切手を作りま

した。八十円切

手十枚一シート

千円です。三原

教会にお申し込



JICARM (日本難民移住移動者委員会) 広島の新しい動き

萩 喜代治 神父

(1) 新しい動き

「ファイリピンググループ」

「ブラジルグループ」が、

動き始めました。タガログ

語、ポルトガル語の話せる

司祭、シスターが、教区内

の「ミサ」「黙想会」「赦し

の秘跡」「相談事」等に自

由に動き、助けられる体制

を作ろうとしています。

(2) 新たな課題

a 「霊的面での手助け」

と同時に、「生活面での手

助け」の必要性を痛感して

います。特に夫による妻へ

の暴力(DV)も現代の深

刻な問題になっています。

b 「信仰面、生活面」に

おいてのリーダー養成も大

切な課題です。

(3) 皆さんへのお願い

「ことば」よりも「心」

から相手と接していかれたら

と思います。各教会の「神

父さん」「信者さん」よろ

しくお願いいたします。

JICARMのホームページ

<http://www.jicarm.com/>

カトリックの雑誌

⑦

オリエンズ宗教研究所 季刊

The Japan Mission Journal

(JMJ)

JMJは過去六十年間、日本における唯一のカトリック英文研究誌として、日本の社会と宗教文化の状況分析をし、記事や書評などを通して幅広く議論できる場を提供してきました。

今なおJMJは、二十一世紀におけるキリスト教の課題、特にアジアにおける三層の対話―貧しい人との対話、文化との対話、諸宗教との対話―を大切に、日本の宣教課題・教育問題・典礼・カテキズム・エキュメニズム・文学・仏教・神道といったテーマをわかりやすく取り上げています。

最近では、日本の宗教文化の情報を外国へ発信するだけではなく、外国の記事も紹介しています。日本に住み、福音の価値観に基づいて生きようとする私たちは、この小さな雑誌を通じて、世界各地で行われている宣教活動や信仰教

育から学び、意見交換できるのです。

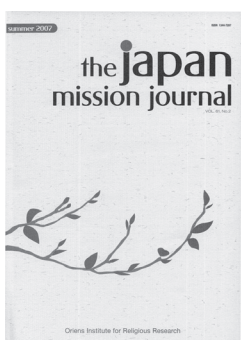
宗教間対話として、キリスト教でない他の宗教の方による、生活環境や世界問題の記事からも学ぶところが多いです。

日本とアジアの宗教や宣教を学ぶ海外の若い人には、JMJの歴史と活動を賞賛する人が少なくありません。日本の教育問題や美の思想、諸宗教間の対話などの資料として、海外の雑誌がJMJの記事を引用する例も増えていきます。

英文で書かれているために一般読者は多くありませんが、JMJを通じてひとりでも多くの方が、いつもとは別の視点から福音宣教を学び分かち合えれば、それにまさるすばらしいことはないと思いません。

●オリエンズ宗教研究所

(電話)〇三―三三三―一七六〇二



ひび



〈54〉

学生の頃、まだお目にかかったことのない先生にお会いするために出かけました。会場の中を探しましたが、見つかりません。仕方がないので集まりに来ていた学生っぽい人と話をしてみました。「私がその〇〇です。」い



『主はいつも私たちの隣に
いらっしゃる』

イエズス会士
祇園教会

松井 紀直

や、あの時は驚きました。私は、先生はいらっしゃらないと思っていました。しかし、ちゃんと目の前にいらっしゃったのです。ただ私が先生を知らなかっただけだったのです。ルカ福音書に、エマオに向かう二人の弟子に復活の主が現れる場面が描かれています。二人の弟子がイエスの十字架刑に落胆し、エルサレムの仲間のもとから離れて、とぼとぼと旅をし

ている姿から始まりです。そこにイエスが近づいて来て、一緒に旅を始められます。しかし、二人の弟子はそれがイエスだとは分かりません。イエスは二人にモーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたって、御自分について書かれていることを説明され、それによって二人の心は次第に燃え始めました。そして遂に最後の夜、人々の救いのためにご自身の体として、パンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いて、弟子たちにお渡しになった真の意味を悟った時、今までずっと一緒にいたこの方こそ復活して生きておられるイエスだと分かるのです。

その瞬間から二人の人生は一変します。もはやどの様なことがあっても、奪われることのない喜びと絆を見つけたのです。私たちの信仰の歩みも同じだと思います。主イエスがいらっしゃらないのではない。主はいつも私たちのすぐ隣にいらっしゃって、私たちを限りない愛で生かしてください。ただ私たちが主イエスを知らないだけなのです。私たちの信仰の歩みは、復活された主イエスとの出会いの歩みであり、それは取りも直さず、主イエスのことを深く知っていく歩みなのだと思えます。

風紋

自分が担当者になって初めての教区報ができました。こんな少数人数で編集しているとは思いませんでしたし、編集会議もたった二回で、あとはそれぞれの役割分担で動いて行くので、すごいと思えました。これまでの流れを大切にしながらも、さらにより良いものにしていきたいと考えています。皆さんの祈りと力をお貸しください。(にん)



四月二十九、三十日、エリザベト音楽大学西条学舎で教区青年大会が開かれ、久しぶり大会には教区内外から七十名が参加しました。『未来の教会』をテーマに、教区の基本方針についてそれぞれのグループで分かち合

いや講話がありました。青年たちは懐かしい友との再会、新しい友との出会いも楽しみ、各地区情報交換などもしていました。青年たちの集まる場所を作ろうと企画された今回の大会。この大会がそれぞれの時代の若者の手によってこれからも続いていくことを願っています。

5月3日 津和野乙女峠まつり



たくさんの若者が夜中に歩きました。

カトリック「正義と平和」
全国集会・広島大会
青年のみなさんも
参加しませんか？

『原爆ドーム祈りの集い』
九月二十三日 十九時から
原爆ドームの前で原爆や戦争の犠牲者を想い、心を合わせて祈りましょう。
『分科会―青年と世界の平和を考える』
九月二十四日 九時から
青年の分かりやすい視点から、皆で話をしましょう。
*お問い合わせは、青少年情報センターまで。